

話を「聞く」ことの大切さ

明日から10月となります。令和6年度もちょうど、折り返しの時期になりました。前半の振り返りをていねいに行うとともに、その振り返りを通して、後半の目標や計画を改めて考えてみましょう。

さて、文化祭では、みなさんが、準備や練習も含め、一生懸命に取り組み、すばらしい成果を残しました。とても頼もしく、嬉しく感じました。また、仲間の発表を真剣に鑑賞していました。みなさんは、ふだんから人の話をしっかり聞くことができており、とてもすばらしいと思います。

今日はあらためて、「話を聞く」ことについてお話をします。ピロティに掲示された額の中に、「一生懸命を大切にする」という言葉とともに、「人の話をしっかり訊く」という文があります。

「話を聞く」という文の、「聞く」という言葉について、よく使われる漢字は、「門構え」の「聞く」と「耳偏」の「聴く」があります。もっともよく使われるのは、「もんがまえ」の「聞く」ですね。この漢字には、声や音が自然と耳に入ってくる場合に使われます。「みみへん」の「聴く」には、声や音を「集中して聞く」という意味があります。

1階のピロティの額には、これら二つの漢字とは異なる「きく」が書かれています。それは「ごんべん」の「訊く」です。この「訊く」には、「質問する、尋ねる」「物事を明らかにしようと調べる」などの意味があります。聞こえてくる音や声を耳できくだけでなく、自ら相手に質問したり、尋ねたりして知識や情報を積極的に得ようとする意味が、この漢字に込められています。

疑問に思ったことやどうしたらいいかわからないことなど、誰かが話してくれるのをじっと待っているだけでは、解決しません。人に訊いてみようとする積極的な行動や姿勢が、これから時代にも強く求められていくことでしょう。

「もんがまえ」「みみへん」「ごんべん」の「きく」は、どれもがよく考え、よく学ぶ上でとても大切です。よりよい聞き手になることを通して、よりよい学び手になるだけでなく、人とのつながりが深まり、自分自身の視野も広がっていくのではないでしょうか。

これからも、「聞くこと」を大切にしていってほしいと願っています。

※全校集会での講話の内容に加筆・修正しています。